

研修報告書 No.17

研修先： 渭南病院

私は初期研修2年目の終盤に高知県土佐清水市にある渭南病院で1か月研修させていただきました。私の研修病院も県内では田舎の方ではありますが、それよりもさらに高齢化が進んでいる地域であり、交通のアクセスもお世辞にもいいとは言えない地域に行くことは初めてのことでした。夜には車通りもほぼなく、商店街もシャッターが閉まっている店が多く、見知らぬ土地でさらに不安な気持ちになりました。私の不安とは裏腹に、院長先生を始めとして、医局員の先生方、外来・病棟の看護師さん、医療スタッフの方々には大変よくしてもらい、良い研修ができたと思います。

1か月の研修内容としては、午前中は一般外来や救急外来をし、午後は患者さんの自宅や施設への往診、処置などの病棟業務、内視鏡検査、転院搬送の同乗などをさせていただきました。今まで外来は救急外来でしかやったことがなかったのですが、今回初めて一般外来をさせていただき、経過のフォローをいつするか、どこで終診とするかを自分で決めなければならず、今まで経験したことがないことばかりでした。外傷の処置も救急外来では何度もやることがありますが、上級医の指示を仰いでからでした。ですが、今回は自分で考えて決めなければならず、「それでもいいけど、こっちを使う方がよい」というアドバイスがとてもためになりました。創部のフォローも、普段は上級医の外来か形成外科に紹介することが多く、自分で経過をみることはなかったもので、どのように治癒していくかの過程も見ることができ、今後活かせると思いました。

往診では、どうしても自宅で過ごしたい患者さんや物理的に病院を受診することができない患者さんの診察をするために、遠いところでは病院から車で30分近くかけて行くこともありました。院長先生の顔を見ると安心した表情になる患者さんの顔がとても印象に残っており、往診の果たす役割がとても大きいものだと実感しました。

また、全身麻酔が必要な緊急手術や外傷手術、緊急カテーテル治療をするためには片道1時間かけて他院へ転院搬送する必要があります。対応困難な急性期疾患は転院を依頼し、回復期や退院後のフォローはこちらで受け入れるという病院としての役割分担がしっかりできている医療体制も素晴らしいと思いました。

病棟の処置では、中心静脈カテーテル（CVC）を入れさせてもらえる機会がたくさんありました。こちらでは食事・水分がとれずに入院し、CVCを入れる患者さんがたくさんいらっしゃり、貴重な経験となりました。食事がとれていなかった患者さんもCVCから経静脈栄養を開始すると経口摂取が進み、栄養状態の重要性を感じました。ADLが低下した患者さんには早期にリハビリを導入し、退院までの支援を行っていました。高齢者では特に栄養とADLの改善が早期退院につながると実感しました。

この1か月で今まで経験したことがない貴重な経験がたくさんできました。渭南病院で地域研修を終えることができよかったと思います。最後に渭南病院の皆様、高知医療再生機構の担当者様に心から感謝申し上げます。